



未来を夢見て Season 2

2021/6/9 No. 81

澄み切った青空・校旗はためく下に ～6年生校旗掲揚集会での講話内容にて～

(前略) さて、今日校長先生から皆さんにお話するのは、「校旗」についてです。その前に「旗」について考えてみましょう。みなさんは旗にはどんな役割があると思いますか。正直あまり考えたことのない人がほとんどだと思います。旗には、その団体の象徴(シンボル)としての役割があります。一番分かりやすいのは国旗ですね。私たちの国にも「日の丸」があります。同じように、学校のシンボルとして作られたのが「校旗」です。

では、今度は小野小学校の校旗についてお話します。

この校旗は今から30年前、小野小学校がここに誕生した時に、当時の中学生の人のアイデアでこの図案が考えられました。中心にあるのは大和町の町の木もみじ、そしてそこに重なるようにあるのは、小野地区の芳の沢に自生する「水芭蕉のがく」です。この2つが重なりあうことで、小野小学校に学ぶみなさんに心を一つにしてなかよく生活して欲しい、という願いが込められています。そして、このもみじの葉の形を数えてみてください。7つあります。これは大和町のシンボル、七ツ森を表しています。

次になぜ今校旗の話をしたのか、そのことについてお話します。それはこれまで、小野小学校では校旗がほとんど掲揚されてこなかったからです。今年になってから掲揚塔に校旗があることに気付いていましたか。そもそも旗は掲げられるためがあるので、今のように掲揚されていることが当たり前なのです。ですから、日本中、どの学校にも校旗があり、それを掲揚できる掲揚塔も立派に作られています。当たり前のことを当たり前にする、皆さんもこのことの大切さを先生方に教えていただいていると思います。(中略)

次に私たちが考えたのは、ではだれが校旗を掲揚したらよいか、ということでした。いろいろな考えがあったのですが、最終的には、児童の代表である君たち6年生全員にお願いしたいと考えました。理由は3つ。1つは、やはり校旗はその学校のシンボル、大切なものです。大切なものを扱うにはやはりそれなりの責任が伴います。2つ目は昨年度からこのコロナ禍で、特に6年生の皆さんには十分に最高学年として活躍する機会を作ることができませんでした。そこで、みなさんの活躍する場面を作りたい、ということ、そして3つ目に今年が小野小学校開校30周年になります。この節目の年を祈念して、新しい伝統を皆さんと作り、後輩に引き継ぎたい、ということです(後略)。

140名の6年生を前に、今回の経緯をできるだけ正直に自分の言葉で語ってみました。今回の段取りをしていただいた加藤教務主任、そして主任の和佳子先生をはじめとする6年生の先生方、御協力ありがとうございました。このような時代だからこそ、校旗のもと、子供たちと小野小学校で学一体感そして愛校心を育てていきたい、と心から思います。

(文責：手代木)

